

未来に輝く！ふくしまっ子プロモーション事業
特色のある幼児教育・保育の推進について

色彩を通じて育まれる感性



社会福祉法人 北中央福祉会 あゆみ保育園

目次

- P 3 色ってなんだろう？
- P 4 子どもたちの成長と色の関り
- P 5 色彩が幼児期に与える効果①
- P 6 色彩が幼児期に与える効果②
- P 7 色彩が幼児期に与える効果③
- P 8 色彩が幼児期に与える効果④
- P 9 様々な刺激を受け、活性化する「脳」の秘密
- P 10 右脳に作用する「色彩」
- P 11 子どもは、いつから色を認識できるの？
- P 12 子どもたちに体験させたい「色彩体験」3つの柱
- P 13 色彩を取り入れた「食育」－ 1
- P 14 色彩を取り入れた「食育」－ 2
- P 15 色彩を取り入れた「自然体験」－ 1
- P 16 色彩を取り入れた「自然体験」－ 2
- P 17 色彩を取り入れた「自然体験」－ 3
- P 18 福島市の自然を表現「自然作品展」
- P 19 福島のイメージキャラクターを再現
自然立体アート作品
- P 20 専門講師による、色彩体験教室

色ってなんだろう？

- ・ 私たちの身近にある色。なぜ私たちは、さまざまな色を認識できるのでしょうか？
- ・ 例えば、リンゴが赤く見えるのは？
 - ①リンゴに光が当たる。
 - ②光の波長が反射して目に届く。
 - ③その光を網膜の視細胞が受け取る。
 - ④視細胞が脳に信号を送る。
 - ⑤受け取った信号から脳が「これは赤色」と認識して色を塗る。
 - ⑥その結果、リンゴが赤く見える。

この①～⑥のプロセスを経て「色」を認識させているのではないかとされています。

子どもたちの成長と色の関り

- ・人間の五感で、一番情報量が多いとされているのは「視覚」で、全体の約80%を占めると言われているようで、その視覚の情報の中でも「色」に関する情報はさらに80%を占めると言われているそうです。
- ・生活の中で、子どもがインプットしている情報のほとんどが色に関する情報であるとも言われているようで、それを介して、脳の発達が進んでいるそうです。
- ・幼児期の「色の経験」は、子どもの成長に様々な影響を与えるとも言われているそうです。
- ・この「色」は子供たちにどのような影響（効果）をあたえるのでしょうか？

色彩が幼児期に与える効果 ①色彩感覚が身につく

- 色彩感覚とは「色を感じ取る能力」や「色を使いこなす能力」のことと言うそうです。
- 色彩感覚が身につくと、「色の濃淡」や「異なる色の違い」を感じ取れたり、使いこなせることができるそうです。

色彩が幼児期に与える効果 ②感性が磨かれる、豊かに育つ

- ・ 色彩感覚が育つと、感性も豊かになるそうです。
- ・ 季節や温度により変化する空の色を感じたり、この色ならあの服にぴったりだとイメージすることができたり、自分の感覚を表現する能力が育まれるそうです。
- ・ 感性の豊かさは、その人の人間性も生活も豊かにするそうです。

色彩が幼児期に与える効果 ③多面的な視野が育つ

- ・ 幼児期に「多くの色」を見て育った子供は、物の微妙な違いを観察することが得意となるそうです。

- ・ 小学生1～2年の子に「葉っぱを描いて」伝えると、多くの場合、緑一色で塗りつぶしますが、幼児期に「多くの色」を体験した子供は、葉脈を濃い緑で描いたり、季節や状況によって色を変えたり、想像して物事を多面的に見ることができるようになるそうです。

- ・ この物事を多面的に見る能力は、生きていく上で大きな助けとなるのではないのでしょうか？

問題を解決する、別の道を探す、相手の気持ちをくめるのも、あらゆる方向から物事を洞察する力があってこそだと思います。

色彩が幼児期に与える効果 ④脳が刺激を受けて活性化する

- ・ 幼児期は脳への刺激が必要な時期です。（特に色を与える刺激は重要となるそうです）
- ・ 脳は刺激を受けるほど活性化するそうです。
- ・ 色にはそれぞれ異なった刺激があり、多くの色を見るほど様々な刺激を得られるそうです。
- ・ 脳は刺激を得て、何かひとつの特性や能力が伸びると、それと直接関係しない部分の能力も伸びる性質があるそうです。
- ・ 乳幼児期から楽しめる「色」からの刺激は、効率よく脳を発達させることができるのではないのでしょうか。

様々な刺激を受け活性化する「脳」の秘密

- 一般的に、人間の脳は3歳までに80%が完成するといわれているそうです。
- 0歳～3歳時期の教育の重要性が、大脳生理学の発達によって明らかにされてきたようで、人間の脳は、3歳までに80%、6歳までに90%、12歳までに100%完成することもわかってきたそうです。

右脳に作用する「色彩」

・近年のデジタル社会では、多くの人々が、論理性をつかさどる「左脳」を活発に使用しているそうです。その一方、色の感覚を知覚する「右脳」は、「左脳」ほど頻繁に使われていないことが多いそうです。

・子どもたちに「色」を体験させることで「右脳の活性化」が図れるのではないのでしょうか？

- ・ 右脳に作用する活動 ～ 色彩、音楽、図形、空間感覚、直観
- ・ 左脳に作用する活動 ～ 言語、計算、分析

子どもは、いつから色を認識できるの？

- 子どもは、生まれたてのころから「すべての色」を認識できるのではなく、目の発達とともに見える色の種類が増え、見え方もはっきりしてくるそうです。

赤ちゃんが色を認識できる時期の目安として

- 新生児期～生後1か月　～黒・白・グレーの濃淡をぼんやり認識できるそうです。
 - 生後2か月～3か月　～赤、黄、緑などを認識できるそうです。
 - 生後4か月～生後6か月　～オレンジ、紫、青など認識できるそうです。
 - このように、6か月を過ぎる頃には、ほぼ全ての色を認識できるようになるそうです。
- ☆そのため、乳幼児期から「色」に触れ親しむ経験が重要になるそうです。

子どもたちに体験させたい「色彩体験」 3つの柱

①食育 ～ 色彩感覚を培う「食育体験」

②自然 ～ 色彩感覚を培う「自然体験」

③専門講師による、色彩体験教室の実施

①色彩を取り入れた「食育」 - 1

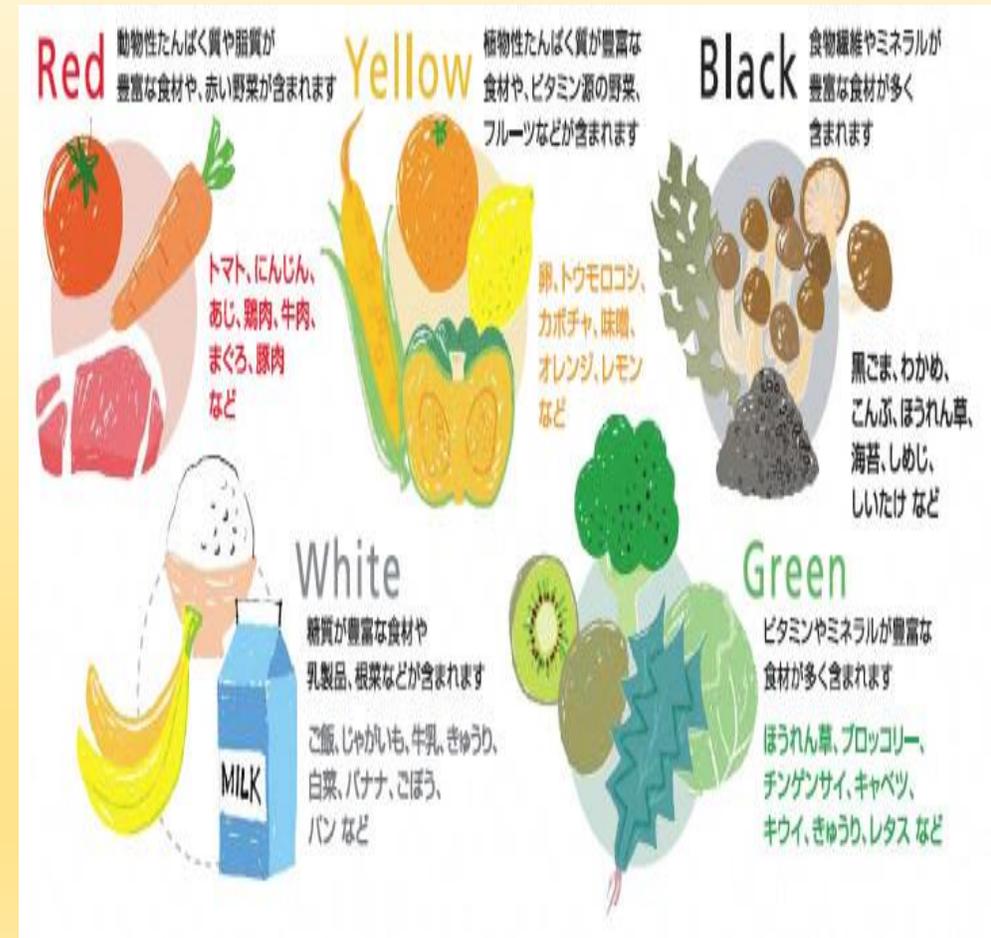
5色の栄養素と「色」の関係

イチゴの「赤色」、バナナの「黄色」など、食材と色は深い関りがあります。

そこで私たちは、色と食育の関連をより深めたいと考え「赤色・黄色・緑色・白色・黒色」の食品に着目しました。

※一般的な栄養3色については、日々の食育活動で実施しています。

5色の食材と色の関連性、そしてどのような栄養があるのかを子どもたちに学ばせ、色彩感覚を養いながら、食材への興味関心を引き出します。



①色彩を取り入れた「食育」- 2

食物の成長を観察することで、色彩変化を感じながら、探求心も育む

トマトなどの食材は、最初から実がなっているわけではありません。

- ①芽が出る
- ②葉が増える
- ③花が咲く
- ④実がなる
- ⑤実が色づく
- ⑥枯れる

このように、植物の成長は①～⑥プロセスを経て育ちます。

私たちは、この一連の成長を通じて「色の変化」を子ども達に学ばせたいのです。



意識しないと、気が付くことのできない「身近な色彩の変化」を子ども達に学ばせ、その思いを共感し、色彩感覚を培います

②色彩を取り入れた「自然体験」 - 1

色彩を体験するのに最適な時期を選んだ「自然」との関り

自然豊かな福島市 ～ 吾妻山

「色」と「自然」のつながりは深いものです。

皆さんは、子どもたちに「自然体験」をさせた過程で「色」も体験させるのでないでしょうか？

ですが、色彩感覚を培わせたいという本園の特色が生かせるような「色に特化した自然体験」はできないものか？と模索しました。

そしてたどりついた答えが「自然の色彩変化が最高潮」の時期に、目的を持たせながら、自然体験をさせていくという取り組みです。

自然の色彩変化が盛んな時期の色彩を体験させることにより、子どもたちは、今以上に「色彩感覚」が培われるはずです。

例：秋の紅葉

紅葉が一番美しい時期を選んで、自然体験（紅葉体験）を行うことで、より色彩感覚を育ませることができるとは思いませんか？



②色彩を取り入れた「自然体験」-2

自然の神秘=色彩変化



身近な生き物「アゲハチョウ」は、黄色の卵、緑色の幼虫、緑茶の蛹、黄色の成虫と成長に伴い、様々な色彩の変化をとげます。

「アゲハチョウ」を育てていく過程で、子どもたちは、様々な色の変化を目の当たりにします。

同時に、命の神秘、なんでこうなるの？という探求心が育まれ、幼少期の子供に多大なる影響を与えるはずです。

①アゲハチョウの飼育観察体験

②アゲハチョウの観察（描く）

③記憶を呼びさまし描くことで、イメージ力、表現力、色彩感覚などが育まれる。

②色彩を取り入れた「自然体験」 — 3

四季の変化=色彩の変化

自然豊かな福島市の「自然の色彩」を子ども達に体験させる目的で、色彩探検バスハイクを行います。

季節の色を体験しながら、どんな「色」があるのかを考えながら探索活動を行います。

- ・春 ～ 春の花、新緑の色彩体験
- ・夏 ～ 夏の果物などの色彩体験
- ・秋 ～ 秋の紅葉の色彩体験

色彩を体験した後は？



色彩を体験させる「バスハイク」の後は、色彩感覚と表現力を育ませる為、福島の四季をテーマにした「アート作品」作りを行います。

福島市の自然を表現「自然作品展」

表現させたい福島市の色彩

自然探検バスハイク活動を通じて、自然の色彩を体験しながら「花・葉・木の枝・石・落ち葉・木の実」などの自然物を集め「色砂・画用紙・折り紙・絵具」なども活用して、子どもたちで「一つの作品」を作ります。

この作品作りを通じて、自然豊かな「福島市の色彩」を表現し、子どもたちの「想像力、表現力、色彩感覚」を育てていきたいと思えます。

作品のテーマは、福島市の特色である「代表的な自然」をテーマにします。

本園の特色ある保育内容と、福島市の豊かな自然環境の2つの魅力を発信します。

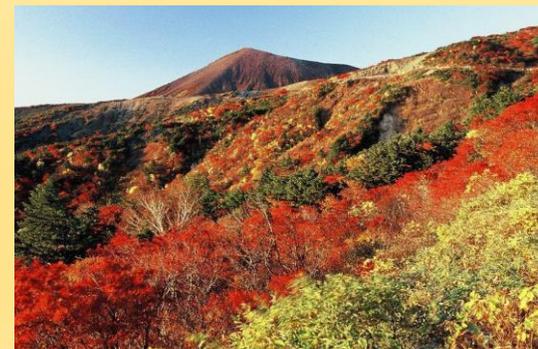
子どもたちが作った、アート作品は、学習センターなどの市内の公共施設に展示を行う予定です。



春：花見山



夏：五色沼



秋：吾妻山の紅葉



冬：雪うさぎ

福島のイメージキャラクターを再現 自然立体アート

福島のイメージキャラクター キビタン

福島のイメージキャラクター「キビタン」をテーマにして、立体アート作品を作ります。

キビタンのメインカラー黄色は、あづま総合運動公園の「イチョウ並木」の黄色を連想させる為、イチョウの葉などを活用して、作品を作ります。

この活動を通じて、福島のイメージキャラクター「キビタン」と特色ある保育内容の「2つの魅力」を発信します。



あづま総合運動公園のイチョウ並木

③専門講師による色彩体験教室

活動内容

- ・ 専門講師の指導による色彩体験教室を実施
- ・ 毎月1回実施（0歳～5歳児対象）
- ・ 色の基本色（12色）の中から、毎月1色を選定する。
- ・ 午前10：00～12：00（予定）
園児対象の色彩教室
（0～5歳児対象）
- ・ 午後13：50～15：00（予定）
保育士を対象とした、色彩の講習会
※講習で学んだ内容を日々の保育に取り入れていく。

講師：岡本宏二

- ・ 1961年 新潟市生まれ
- ・ 1987年 国立犀潟病院付属
リハビリテーション学院卒業
- ・ 1988年 病院勤務
（竹田総合病院、太田総合病院等）
- ・ 2012年 ふくしまをリハビリで元気にする会設立
- ・ 2019年 東京福祉大学院卒業
- ・ **資格** 作業療法士、保育士、介護支援専門員、感覚
統合療法認定セラピストなど
- ・ **学位** 児童学修士
- ・ **非常勤講師**
郡山女子大学、国際医療看護福祉大学校
郡山健康科学専門学校など

講師：金山忍 美術家

- ・ 1977年 福島県郡山生まれ
- ・ 1998年 武蔵野美術大学短期大学部卒業
- ・ 2001年 ギャラリー観にて初個展
- ・ 2002年 青森での世界美術大会に参加
- ・ 2003年 福島県三春町に工房を築く